

平成29年度
第1回徳島市総合教育会議

会議録

日 時	平成29年10月27日（金） 午後2時40分～午後3時50分		
場 所	徳島市役所 8階 庁議室		
出席者	職 名	氏 名	
	市 長	遠藤 彰良	
	教育委員会	教育長	石井 博
		委 員	佐藤 文子
		委 員	湊 暁美
		委 員	坂田 大輔
		委 員	網師本 祐季

1 開会

(企画政策局次長)

ただ今から、平成29年度第1回徳島市総合教育会議を開催させていただきます。

2 出席者の紹介

(企画政策局次長)

今回は、本年度第1回目の会議でございますので、出席者の方々をご紹介いたします。

－ 出席者の紹介 －

3 徳島市長あいさつ

(企画政策局次長)

それでは、開会にあたりまして、遠藤市長からごあいさつを申し上げます。

(遠藤市長)

本日はお忙しい中、徳島市総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。

御承知のとおり、平成27年度に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、この改正により、教育長と教育委員長を一本化した、いわゆる「新教育長」や、「総合教育会議」の設置、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、さらには、市長と教育委員会との連携強化を図り、より一層民意を反映した効果的な教育行政の実現を目指すものでございます。

本日は、「新教育長」が就任されてから、初めて開催される、まさに節目となる会議であり、実りのあるものとなることを期待しております。

現在徳島市では、今後10年間の新たなまちづくりの指針となる「徳島市まちづくり総合ビジョン」を今年3月に策定し、市民の誰もが「笑顔倍増を実感できる、市民が主役のまちづくり」に全力で取り組んでいるところでございます。

本日の議題は、徳島市の将来像である「笑顔みちる水都 とくしま」の実現に向け、基本目標である「つなぐ」まち・とくしまや、「おどる」まち・とくしまを進めるうえで、非常に重要なテーマとなっており、教育委員の皆さまとの共通認識のもと、さまざまなご意見や知恵を出し合いながら進めてまいりたいと考えております。

これから新年度の予算編成を行ってまいりますので、本日いただいたご意見をしっかりと参酌しながら、作業を進めてまいりますので、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。開会のごあいさつとさせていただきます。

4 議題の説明

(企画政策局次長)

それでは、これから議題に移らせていただきますが、進行につきましては、当会議設置要綱第4条第1項の規定により、遠藤市長に議長をお願いいたします。

(遠藤市長)

それでは、議題に入らせていただきます。

まず初めに「学校施設におけるエアコン整備について」事務局から説明をお願いします。

(教育委員会総務課長)

－ 学校施設におけるエアコン整備について **資料1** を用いて説明 －

(遠藤市長)

事務局から、「学校施設におけるエアコン整備について」説明がありました。

ただいまの説明につきまして、何かご意見等はございますか。

学校のエアコンということで、私が市長に就任する前から、周辺の市町村では設置率が100%のところがあることや、授業中に教室内で熱中症にかかる子どもがいるという話を聞いておりましたので、就任してすぐに何とか早く整備したいと考え、取り組んでまいりました。

かなり予算も必要となりますので、財源確保として文部科学省に補助金の要望をお願いしてまいりました。ハードルも高く、すぐに補助金の交付というわけにはなりませんが、熱心に要望を重ねることで、補助金をいただくことができました。

現在、エアコンの整備は順調に進んでおりますが、先ほどの資料の説明に小学校整備計画として、「体力の弱い低学年児童等の割合の高い学校を優先して整備するものとする」とありましたね。

(石井教育長)

他市の整備状況を調べますと、1年間で全校整備するという事は難しく、2～3回に分けて整備を行っています。また、整備カ所の順序ですが、施設台帳順や設立年順によって分けて整備するという方法を選択している自治体もありますが、徳島市としては、以前から要望もありました体力の弱い低学年児童等の割合の高い学校を優先する方向性で、準備を進めている状況です。

(佐藤委員)

私が昔、県内で初めてエアコンを導入した学校に勤務していた時の話ですが、「室内の温度が何度からエアコンを使用するのか」や「エアコンの設置場所によって、教室内に温度差が生じるので、エアコンを教室のどのあたりに設置するのか」ということを

よく話し合っておりました。

そのため、平成30年夏の使用開始までには、エアコンの使用規定みたいなものが必要だと感じております。

(教育委員会総務課長)

エアコンの運用につきましては、マニュアルについて現在作成及び検討しておりますので、運用開始までにお示ししたいと考えております。

(坂田委員)

私も以前、小学校の教員をしておりましたので、エアコンが整備された教室で過ごした経験がありますが、エアコンの設定温度は当初28度となっていました。正直なところ28度の設定では、冷房が効いているとあまり感じませんでした。エアコンの風が直接当たる子どもは寒いと感じるわけです。従って、使用規定を作る際には、設置の位置もそうですが、設定温度についても、子どもたちの体調を十分に考慮していただければと思います。

もう一点ですが、資料にありました小学校整備計画の「体力の弱い低学年」というところですが、これは低学年全体を示すものなのか。それとも、低学年の中でも体力の弱い子どもに限定しているのか。どのように考えておられるのでしょうか。

(石井教育長)

低学年全体という考え方でございます。

(坂田委員)

私の経験から申しますと、小学6年生の特に昼からの教室は大変暑かったですね。低学年の児童に比べ、体の大きい子どもたちが密集していますので、教室内のスペースも狭く風も通りにくかったことも影響していたと思います。

また、低学年は5時間授業で帰りますが、6年生はその後の授業もありますので、反対というわけではございませんが、高学年のこうした状況も考慮していただければと思います。

(遠藤市長)

高学年の状況も踏まえながら使用規定を作成していかなければいけませんね。ほかにご意見やご質問等ございませんでしょうか。ないようでしたら、次の議題に進めさせていただきます。

それでは続きまして、「グローバル化に対応した外国語教育施策について」、事務局から説明をお願いします。

(教育研究所長)

— グローバル化に対応した外国語教育施策について 資料2 を用いて説明 —

(遠藤市長)

ただいま事務局から、「グローバル化に対応した外国語教育施策について」説明がありました。

ただいまの説明につきまして、何かご意見等はございますか。

市立高校では、姉妹都市サギノー市への交換留学を夏休みに実施しており、本人負担はありますが、留学費用の一部を徳島市が補助しております。一昨年留学を経験した12人の生徒が、留学によって得た経験を熱心に話してくれました。私も報告を聞いて、高校生ってこんなにも立派に主張できるものだと感じました。

こうした経験を多くの生徒に積ませたいという思いから、今年度は派遣人数を16人に増やしました。よく言われていることですが、「外国人に接する」ということは非常に良かったようです。そのことを生徒たちがすごく実感しております。

今後は、もっと派遣人数を増やしてほしいという生徒たちの希望をかなえられるよう、財源確保に向け、国や県にもしっかりと要請していきたいと思っております。

(石井教育長)

今年の夏休みに「DoKoDeMoEnglish」という、小学生とALT(外国語指導助手)が交流する取り組みを企画しました。40人程度の定員で募集をかけたところ、500人を超える申し込みがありまして、来年はもう少し定員数を増やしていきたいと考えているところでございます。

こうした状況に加え、参加した子どもたちの様子をたくさんの保護者の方が見学にいられていたことから、外国語教育に非常に関心が高いことが伺えました。

(佐藤委員)

こうした取り組みは、1回だけではなく夏休みを利用して数回行うことは可能なのでしょうか。500人も応募があったということなので、40人だけではなく少しでも多くの子どもたちにALTとの交流を体験してもらいたいと思います。

外国語は、特に慣れるということが一番大事なので、こうした外国の方と接する機会を可能ならば増やしていただきたいと思っております。

(石井教育長)

去年の企画段階では、少し回数を増やしたいと思っておりましたが、さまざまな事情から今年度は1回の講座のみの開催でした。現在、市長にもALTの増員について文部科学省と総務省に陳情していただいておりますので、今後は、できる限りこうした機会を増やしていければと考えております。

(湊委員)

大学には、留学生の方もたくさんいらっしゃると思いますので、大学との連携がとれば、留学生にこうした取り組みを代行していただき、子どもたちとの交流の場を持っていただければと思います。

(遠藤市長)

そうですね。留学生の方にお問い合わせするという提案は、良いことですね。私も最近、外国の方とお話する機会がありまして、そのときに思ったことですが、私たちと発想が違いますよね。はっと気づかされることがたくさんありました。

(湊委員)

外国の方と交流するということは、言葉だけではなく、その方の国の文化とかさまざまなことが学べますので、子どもたちの好奇心を伸ばしていくことにはかなり影響があると思います。

(遠藤市長)

ほかにご意見等はございますか。よろしければ、次に進ませていただきます。
続いて、「教職員の働き方改革について」、事務局から説明をお願いします。

(学校教育課長)

－ 教職員の働き方改革について 資料3 を用いて説明 －

(遠藤市長)

事務局から、「教職員の働き方改革について」説明がありました。
ただいまの説明につきまして、何かご意見等はございますか。
教職員の長時間勤務の問題については、マスコミ等にもよく取り上げられておりますが、私もこの実態には驚いたところです。

(石井教育長)

文部科学省が実施した全国調査では、中学校の教員の約60%が過労死ラインを超えているとの報告があり、小学校の教員では3分の1という数字が出ておりました。こういった報告からもかなり勤務時間が長い方が多いということが言えます。教員として長く勤めておられました坂田委員はどのように感じておられますか。

(坂田委員)

そうですね、私としましては、長時間勤務についてあまり意識したことがありませんでした。例えば、明日の授業の準備について、夜中までかかったり、土日も学校に出てきたりして行わなければならない作業があったとしても、そうした準備をしておけば、授業で子どもたちが楽しいだろうなという思いで作業を行っていましたので。

ただ、資料にもありました教職員の負担軽減に向けての取り組みが何かあるのであれば、ありがたいなと感じています。そこで、ICT機器を活用した校務支援システムとはどのようなものなのでしょうか。

(教育研究所長)

現在、学校では、教務担当が行う事務関係のデータや、学級担任が行う出勤簿や通信簿、指導要録に関するデータ、さらには、養護教諭が行う健康管理のデータなどさまざまな種類のデータがあり、各データについてはそれぞれの担当が管理しているため、互いにデータを共有できていない状況です。そのため、こうした各データを一つのソフトでつなぐシステムのことでございます。

例えば、担任の先生が出席状況のデータをソフトに入力すれば、教務担当や養護教諭にもそのデータが伝わりますし、担任が持つ通信簿や指導要録といったその他のデータも同様に共有できます。こうした教務系や保健系、事務系のさまざまなデータを一つにつなぐことで業務を軽減していくといった取り組みであります。

(坂田委員)

取り組みの内容を聞いていますと、業務の負担軽減が図られることはわかります。ただ、こうしたICT機器を活用した負担軽減の取り組みでも良いのですが、私としては、日々の業務に関するもので何か軽減できることはないかと思ってしまう。

学級担任を担当したときに思っていたことですが、単純に効率化を図れる業務って中々ないですね。例えば、部活動の指導で効率化とはどのようなことを考えると、答えを出すことが難しいし、子どもたちや保護者への対応となると、そもそも効率化を図るものではないと思いますので、教員という職業上難しいですね。そのため、日々の事務的な業務の中で、何か負担軽減につながる取り組みがあればありがたいと思います。

(遠藤市長)

坂田委員のお話を伺っていますと、単に教員数を増やすことができたとしても、長時間勤務の問題が解決することにはなりませんよね。教職という仕事柄、子どもたちとの関わりを熱心にすればするほど、働き方改革を進めていくことが難しくなるというか。

(石井教育長)

学校現場には、健康面での課題を抱えている方もおいでますし、頑張りすぎる方が結構いらっしゃいますので、できましたら管理職の先生方には、ある程度広い視野で見ていただいて、少し頑張りすぎている方に関しては業務を分配するとか、業務を平準化するという調整は、可能な範囲で管理職の先生方が取り組めることだと思います。

ただ、熱心な方は自分で仕事を増やしているところもありますので、そのあたりを止めることは難しいですね。部活動にいたしましても、子どもたちの技術向上やチームを強くしたければ、土日も練習試合を組むといったこともありますね。こうした方が行き過ぎないよう、体を壊すようなことがないよう管理職の先生方がしっかりと業務管理を行うことが必要だと思います。

(佐藤委員)

中学校の教員で毎月100時間近くの残業をする方は、まず熱心に部活動をされており、部活動の後は学級担任の業務をこなすほか、さらには子どもたちの家庭訪問も行うこともあります。こうした業務のすべてを一人で行っていますので、月100時間を超えてしまうことになりがちです。

こうした中、文部科学省では、中学校の部活動の指導を専門家に任せてはどうかという意見もありますが、部活動は、子どもたちの人間形成に非常に重要であるとともに、指導者の役割も大きいと思います。そのため、部活動の指導は学校の先生にお願いしたいと思うと同時に、指導される先生の体の心配も考慮しなければいけませんので、本当に難しい問題です。

そうした中で、部活動の時間をできる限り少なくしていくため、資料にありました「ノ一部活デー」をしっかり守ることが大切だということと、この機会に部活動の指導方法等を働き方改革と合わせて見直していくことも必要なのではないかと思います。

(網師本委員)

資料にありましたICT機器を活用した校務支援システムのことですが、例えば、子どもたちへの指導要録など、私たちの頃は手書きで行われていましたが、このシステムが導入されると手書きではなくなるということでしょうか。

(教育研究所長)

現在、指導要録に関しましては、手書きで行っておりますが、今後は、指導要録等も含めたこうしたものが手書きではなくなる可能性があります。

(網師本委員)

教員の業務すべてを効率化していくことは難しいと思います。ただ、システムに関しても例えば病院の電子カルテのような情報を学校単位で共有するとか、会議にしてもポータルサイト的なものを使ってテレビ会議で終わらせるなど、こうしたものを構築していくことも良いのではないかと思います。

一方で心の教育といったところは、まだまだこれから議論が必要だと思いますので、業務の効率化については、できるところから進めていっていただければと思います。

(遠藤市長)

教員の働き方改革については、心の教育に関する部分以外のところで効率化を進め、業務負担を軽減していく方法でということですね。

(石井教育長)

行政といたしましてもシステム導入による情報の共有化や、会議や出張等の回数をできる限り少なくするなど、できる部分から業務負担を減らしていく方法で取り組みを進めていきたいと考えております。

(遠藤市長)

教員の皆さんの大変さが改めてわかりました。ほかにはよろしいでしょうか。それでは、最後に、「スポーツ施設の整備について」について、事務局から説明をお願いします。

(スポーツ振興課長)

— スポーツ施設の整備について 資料4を用いて説明 —

(遠藤市長)

ただいま事務局から、「スポーツ施設の整備について」について説明がありました。

この説明につきまして、何かご意見等はございますか。

資料にありました陸上競技場についてですが、改修の際には、ぜひともネーミングライツを実施していただきたいと思います。そのほか、徳島市のスポーツ施設に関しては、老朽化しているものが多く、対策が迫られていますね。

(石井教育長)

基本的な方針としては、長寿命化をできるだけ図りながら、施設整備を行っていきたいと考えております。

(湊委員)

スポーツ施設が15カ所あると説明にありましたが、施設の改修にかかる費用もかなりになるとは思いますが、年間の維持管理にもかなりの費用がかかっているのでしょうか。

(スポーツ振興課長)

管理につきましては、指定管理者制度で運用していますので、大規模改修等を行う場合を除き、維持管理費は、指定管理者側で負担していただいております。また、こうした費用には、施設の維持・修繕費に加え、指定管理者の人件費等も含まれていますので、いずれにしてもさまざまな面で費用がかかっていることは事実です。

(遠藤市長)

市立体育館は、約45万人もの方が利用されているのですね。こうした多くの方に利用される施設を管理する徳島市としては、施設整備や維持管理に関する責任も非常に大きいですね。

(スポーツ振興課長)

市立体育館については、さまざまな種目のスポーツやイベントにも利用できることから、利用頻度が高くなっていると思われます。

(石井教育長)

また、通常の施設利用者に加え、市立体育館の指定管理者が健康づくりを目的にスポーツ教室の開催を積極的に行っていることも大きな要因だと思います。利用者が年間40万人を超える施設というのはあまりないと思いますので、非常にありがたいと感じております。

(湊委員)

使用料はどのくらいですか。

(石井教育長)

かなり低く抑えた額になっており、他市の同施設と遜色はないと思います。

(湊委員)

中々難しいとは思いますが、もう少し上げることができれば、収益も上がると思うのですが。

(石井教育長)

そういった意見もございしますが、できるだけ利用者の皆さんが利用しやすいよう、使用料は低く設定しております。

(遠藤市長)

スポーツ施設というのは本当に重要で、徳島で先日開催されたラフティング世界選手権のマスターズ男子部門で、徳島市職員が所属するチームが、総合優勝を果たしたのですが、これも練習拠点である那賀川の存在自体も大きかったように思います。

(石井教育長)

また、平成元年の医療費が日本全体で約20兆円だったわけですが、平成27年で約40兆円と倍になっております。高齢者が増えているという現状が大きな要因だと思いますが、自治体によっては健康づくりによって医療費の削減を図るといった取り組みを既に行っているところもございします。

こうした取り組みは、医療費の削減に加え、健康な方が増えるといった効果も期待できますので、自治体として取り組むべきものだと認識しています。

(遠藤市長)

生きがいづくりや健康づくりにスポーツ施設を有効に活用していただきたいと思えます。そのほか、ご意見等はございませんか。

それでは、本日予定しておりました議題については、すべて協議いたしましたので、そのほか、何かご発言等はございませんか。

(石井教育長)

本日の新聞で、いじめの問題に関する記事が掲載されており、文部科学省が平成28年度の調査結果として、いじめの認知件数が全国で約32万件と過去最多を更新したほか、小学校では前年度と比べ、1.5倍に急増した等の内容でした。

いじめ増加の主な要因といたしましては、平成28年度から、これまで調査の対象となっていなかった「けんかやふざけ合い」といった項目もカウントしていくように追加されたことだと思われまます。

ただ、徳島市に関しましては、平成28年度における小学校のいじめの認知件数は、前年度と比べますと、少し減少しております。本市のいじめに対する対策につきましては、青少年育成補導センターを中心にさまざまな取り組みを行っております。

例えば、いじめ防止に関する「指導資料」を平成25年度に作成し、すべての学校の先生方に配布しているほか、平成26年に「徳島市いじめ防止基本方針」を策定しました。そして、毎年5月頃にいじめをなくす「家庭の手引き啓発資料」を全家庭にお配りし、保護者の方々にもいじめ防止に協力していただくようお願いしております。そのほか、子どもたちが悩んだときに電話で相談を受け付ける「相談ホットライン」を開設しております。

また、本日、徳島県庁内でいじめ問題の審議会がございまして、会議の中で発言を求められたときに「子ども同士でいじめを防げるような仕組みづくりが必要ではないか」という意見を申しました。

こうした仕組みづくりの一つとして本市では、昨年度からいじめの防止を目的とした「小中学校生会議」を開催しております。この会議では、徳島市と佐那河内村の各小中学校から計100人の児童生徒が参加し、自分たちでいじめの解決策を話し合うとともに、会議の内容を記載したポスターを作成しています。作成したポスターは、すべての学校の教室に掲示しているほか、この会議を指導していただいた鳴門教育大学の先生にお願いしまして、いじめ防止のメッセージビデオを作成し、そのビデオを学校の授業で活用しております。

いじめは、一つの取り組みによってすぐに解決するという問題ではございませんので、このようなさまざまな対策を講じながら、「いじめは絶対に許さない」といった啓発活動に学校現場と連携しながら取り組んでいる状況でございます。

(遠藤市長)

私もこの記事を見ておりますと、最近是全国的にいじめがすごく増えているのだと思いました。ただ、認知件数のカウント基準を変えたことも要因の一つだということでしたね。

(石井教育長)

文部科学省では、いじめはどんなに些細なことでも深刻な状況につながる可能性があるため、軽微なことから認知し、早めに対処していくといった方針に変わってきています。そのため、学校現場でも、子どもたちを隅々まで見ながら、小さなことでも早め早

めに指導していくとともに、いじめは時として急に深刻な状況になることもありますので、油断せずに危機感を持って取り組んでいただいております。

(遠藤市長)

ありがとうございました。何かほかにございませんか。

本日は、学校施設におけるエアコン整備について等、4つの議題について委員の皆様からさまざまなご意見をいただきました。

いただきましたご意見も踏まえ、今後も取り組みを進めてまいりたいと思います。

8 閉会

(遠藤市長)

以上をもちまして、平成29年度第1回徳島市総合教育会議を終了いたします。
本日は、皆様、ありがとうございました。